

第2回国有林野事業見学会を開催

「低コスト路網」の見学とアプトの道」を歩こう！

10月22日(金)、指導普及課では、広く一般の方々に当局での取り組みを理解していただくため、第2回国有林野事業見学会を、群馬県安中市松井田町の国有林で実施しました。

今回は、地球温暖化対策として、森林吸収量を確保するための間伐や長期的に停滞している林業の採算性の回復を図るため、繰り返し使用できる低コストで壊れにくい路網を整備し、作業効率の高い高性能林業機械を使用して伐採・搬出する様子を見学していただきました。参加した14名は、初めて見る林業機械に歓声をあげながら熱心に説明に聞き入り、機械を操る若いオペレーターに質問をしたり、伐採後のヒノキの切り株を触っては「いい香りがする。」と森林とふれあったりして楽しんでいました。

また、「よく広葉樹がいいって言われるけど、やっぱり針葉樹・広葉樹揃ってこそ森林よね。」等、当局が目指す針広混交林など多様な森林づくりへのご理解をいただくことができ、充実した見学会となりました。

昼食後、廃線となった信越線跡を遊歩道とした「アプトの道」を散策し、横川・軽井沢間553mの標高差をいかにして越えるかに挑んだ先達の魂に触れたり、旧熊ノ平駅の風景から作詞されたという唱歌「もみじ」の歌詞から、100年前の森林に思いをはせたりするなど、明治時代にタイムトリップしたような散策をすることができました。

毎回好評をいただいている事業見学会ですが、それに甘えることなく、今後も参加者の意見を取り入れ、よりわかりやすい見学会を企画し、多くの方に国有林野事業を理解していただけるよう努力していきたいと思っております。

